

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 21 年 2 月 26 日 (2009.2.26)

【公開番号】特開 2007-185358 (P2007-185358A)
 【公開日】平成 19 年 7 月 26 日 (2007.7.26)
 【年通号数】公開・登録公報 2007-028
 【出願番号】特願 2006-6285 (P2006-6285)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 6/03 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 6/03 3 3 0 B

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 1 月 9 日 (2009.1.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

被検体の周囲を回転する回転体と、前記被検体を挟んで対向するよう前記回転体に配置された X 線管及び X 線検出器と、前記 X 線検出器が検出した投影データを用いて前記被検体の断層像を再構成する画像再構成手段と、前記画像再構成手段が再構成した断層像を表示する表示手段とを備えた X 線 CT 装置であって、

画質指標所望値の入力に用いられる操作手段と、

前記回転体を回転させずに前記被検体より取得したスキャノグラムデータを記憶する記憶手段と、

前記スキャノグラムデータを解析して、前記回転体の回転中心からの前記被検体の位置ずれ量を含んだ被検体三次元モデルを生成するモデル生成手段と、

前記被検体三次元モデルから前記被検体の撮影部位に応じた画像ノイズを算出し、前記画質指標所望値との比較から照射 X 線量の変調パターンを設定するスキャン計画手段と、
を具備したことを特徴とする X 線 CT 装置。

【請求項 2】

前記モデル生成手段は、前記位置ずれ量の算出に、前記被検体が載置された天板の位置情報を用いることを特徴とする請求項 1 に記載の X 線 CT 装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

本発明の X 線 CT 装置は、被検体の周囲を回転する回転体と、被検体を挟んで対向するよう回転体に配置された X 線管及び X 線検出器と、X 線検出器が検出した投影データを用いて被検体の断層像を再構成する画像再構成手段と、画像再構成手段が再構成した断層像を表示する表示手段とを備えた X 線 CT 装置であって、画質指標所望値の入力に用いられる操作手段と、
回転体を回転させずに被検体より取得したスキャノグラムデータを記憶する記憶手段と、
スキャノグラムデータを解析して、回転体の回転中心からの被検体の位置ずれ量を含んだ被検体三次元モデルを生成するモデル生成手段と、
被検体三次元モデルが

ら被検体の撮影部位に応じた画像ノイズを算出し、画質指標所望値との比較から照射 X 線
量の変調パターンを設定するスキャン計画手段と、から構成したものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

本発明の X 線 C T 装置のモデル生成手段は、位置ずれ量の算出に、被検体が載置された
天板の位置情報を用いるものである。